

『 一事徹底 』

「こうなればいいな」という願いを叶えるためには、何らかの目標を設定し（現状の把握と分析を踏まえて）、その実現に向けて具体的な取組がなされ（期限を設ける）、一定の期間の後、その取組の有効性や妥当性を検証し、継続するか、または改善が必要であれば改善策を立案・検討し、また一定の期間取り組んでみる。この繰り返しにより、目標の実現が図られるものと押さえています。設定した目標が実現された後は、新たな目標を設定し、目標の実現のための具体的な取組を実行する。在りたい状況を実現するためには、以上のような流れが一般的だと思います。

さて、少なくとも「目標」を設定するということは、目の前の現状を踏まえて、その状況よりも良い状況を作り出したいという願いがあるからだと思います。ですから、その実現のための具体的な行動とその評価は、必要不可欠な営みだと捉えています。

これから述べることは、私個人の経験上からの受け止め方及び一つの考えです。

学校というところは（他の組織についてはよくわかりません）、実にたくさんの目標があります。

例えば、学校教育目標→重点教育目標→教育活動推進に必要な業務を分担された各部の目標&学年経営及び学級経営の目標、日々の授業の目標。そして、人事評価制度の一環から、校長、教頭、教諭等、一人一人が学校教育目標（重点教育目標）の達成のために、個人の目標を設定します（年2回）。運動会（体育祭）や学習発表会（学校祭）等の学校行事においても目標があります。ここら辺までは、目標実現のための取組と、その評価がきちり行われています。

さらに、学校には、時代や社会からの要請を受けて、「〇〇教育」というものがかなりあり、これらについても目標が設けられています。あくまで私の経験上からの感想ですが、このあたりから、取組の実行とその評価や改善は、少しあやしくなります。全くやっていないわけではないのですが、「きちり」というレベルではなくなります。これら「〇〇教育」というのは、各教科のように時数が確保されているわけではありません。従って、関連する教科と合わせて、あるいは上手く取り込んで行うという形をとりますので、高い意識を持って計画化していくことが求められます。学校として、「〇〇教育」について最上位に重点を置き組織的な取組を明確にしていたり、校内研究のテーマとして扱っていたりしているならば別ですが。

そして、私がずっと違和感を持ち続けてきたのが、「月別目標」です。4月から翌年3月まで、月ごとの「生活目標」等を設けている学校が多いと思われそうですが、ここに至っては、その目標実現のための取組とその評価という営みは、かなり希薄な感じになります。もし、やられているとしたら、その学校は本気でその目標を実現させようとしていると推測しますので、「すごい」と思います。ただ、そこに費やす時間と労力は相当なものになってくるものと想像します。

果たして、この月別目標。達成できたのか、できていないのか？達成できていないにもかかわらず、月が替われば、カレンダーのごとく自動的に目標も新たなものになるのです（私の知る限りにおいてですが）。明確な取組や評価もしない目標は、「目標とは言えない」と思っています。全教職員が検討し合意した「目標」であるならば、「達成できた」と皆が手ごたえをつかむまで、取組と評価を続けるべきではないかと思うのです。

ただ、この月別目標。肯定的に見ますと、その内容は良くできています。学校生活の1年を見通して、季節感や適時性、学校行事等を踏まえてその月において子ども達が、裏を返すと先生方が留意すべきことを表現しています。ですから、〇月の目標とは言わず、「〇月の重点」というような、注意喚起、または「普段よりも意識しましょう」という方針であれば、私としてはストンと納得できるのですが。

もう一つ、目標について、思うところがあります。

厳しい（あるいは苦しい）現状を打破する必要がある時には、目標は、できるだけ少ない方が良い。できれば、「一つのことを徹底してやり切る」くらいに開き直った方が良い。

学校全体が落ち着かないとか、今一つ秩序がない等、なかなか教師の指導が通用しない状況が時としてあります。このような状況になりますと、先生方は、徒労感に満ち、疲弊し、モチベーションも著しく低下しています。また、「あの先生の指導は甘い」等、同僚に対する不満や批判も噴出することがあります。こうなると、教師集団として大事なチームワークもなくなり、現状の改善など、夢物語になってしまいます。

こんな厳しい状況の時は、まずは、教師集団を一つにまとめることが大事です。同じ目標に向かって「よし。やるぞ！」という雰囲気を作るのです。では、どうするか？

目標の設定とその実現に向けた取組の立案の仕方にはいろいろあると思いますが、大事な視点は、やることをできるだけ少なくすること（必ず期限を決めて検証する）。できれば一つに絞った方がいいです。そして、「それなら、自分も少し頑張ればできそうだ」「それを、みんなで徹底してやれば、子ども達が変わるかもしれない」と思わせることです。何の負荷もかからない簡単なことは、すぐできるかもしれませんが、それでは「頑張ってやったら、変わってきたぞ！」という達成感や充実感を味わえません。「頑張ったら、変わった」という、自分の努力が成果につながることで、人間にとっての本質的な喜びであり、自信につながるのです。しかも、それを、全員がやるのです。これが一体感と自己有用感を醸成し、徐々に、目標実現に向けた組織力と個々の力量が向上していくものと考えます。

人間、一度にやれることには限りがあります。一つのことに集中して徹底し、その成果を検証する。この繰り返しにより、ある一点が伸びていきます。

ハンカチの中央部をつまみ、上に引き上げるとまわりも少しずつ引き上げられます。「一事徹底」には、こんな効果があるのではと思っています。